

【演習ガイダンス】

Ver.9.0 集合研修対応版

(茨城県版)
サービス管理責任者・
児童発達支援管理責任者
更新研修(1日目)

更新研修の目的・獲得目標

目的

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る
- ③サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サビ児管としての自己検証	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 (自立支援)協議会の役割を理解する。
③	事例検討	サービス提供職員へのスーパービジョンの具体的な技術を獲得し、実践に活かす

サビ児管更新研修の演習スケジュール

- 10:00～10:10 演習ガイダンス
- 10:10～10:25 演習準備
- 10:25～11:30 演習1 事業所としての自己検証
- 11:30～11:40 演習1 グループ共有(発表)
- 11:40～12:40 昼食休憩
- 12:40～14:20 演習2 サビ児管としての自己検証
- 14:20～14:40 演習2 グループ共有(発表)
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:50 演習3 関係機関との連携等についての自己検証
- 15:50～16:20 演習3 グループ共有(発表)

演習ガイダンス グランドルール①

研修(グループワーク)参加者の留意点

- 周りの人に関心を持って、積極的に参加しましょう
- 他の方の発言に敬意をはらいましょう
- 自分と意見が違ったとしても相手の良いところに注目しましょう
- 他の方に自分の意見を押し付けないようにしましょう
- 他の方の発言に共感を示し、耳を傾け理解しようとすることを伝えましょう
- 一人一人の発言を大切にし、一人で話し続けることのないようにしましょう
- 発言の意味が良く分からない時は、そのままにせず分かりやすく説明をしてもらいましょう
- 専門用語や地域性、自分の経験のみでの発言は十分に配慮しましょう
- 自分の意見にこだわり、議論が同じ所で繰り返されないように配慮しましょう
- ユーモアを忘れずに

演習ガイダンス グランドルール②

研修(グループワーク)参加者の留意点

- 笑顔を大切に、積極的に参加しましょう
- 忙しいのは皆同じ、と知りましょう
- 互いの話を良く聴いて受け止め、共感しあいましょう
- 発言は長くて90秒と心がけましょう
- 『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の損』を念頭におきましょう
- 感謝と励まし、相互尊重の精神で臨みましょう
- ドッチボール禁止、キャッチボールをする感覚を共有しましょう
- 会議後の立ち話で決定が変わることはないを知りましょう

演習の進め方【各セッション共通】

1. 演習の進行は演習講師（ファシリテーター）行います
2. 報告及び質疑の時間は厳守してください
3. できるだけ多くの受講生が発言できるようにしてください
4. 批判的な発言が目立つようならグラウンドルールを読み直しましょう

演習1スケジュール

10:10～10:25

○演習準備

10:25～11:30

○演習1 事業所としての自己検証

11:30～11:40

○演習1 グループ共有(発表)

合計90分

★演習準備 10:10～10:25

① 自己紹介(所属、氏名、最近ハマっていること)

目安1～2分×6人≒12分

それぞれ全体進行の合図で始めます

② 事前課題の準備(各自) 目安3分

演習1 事業所としての自己検証 演習のポイント

サビ児管の業務には、利用者への支援から支援員への助言・指導、苦情対応や管理者への支援状況報告など、その役割は多岐にわたります

しかし、サビ児管業務を行うに当たっては、サビ児管が業務を行う環境（風土）を整えることも同時に必要です

ここでは組織環境について確認していきます

演習1の手順

10:25～11:40 事業所としての自己検証

- ①演習の手順・ポイント・留意点の確認【10分】
- ②事前課題1の報告【45分】
 - ・報告者からの「良いと思う取組み」をメモする
- ③個人ワーク【10分】
 - ・メンバー報告の「良いと思う取組み」を整理する
 - ・理由も記載する
- ④グループ共有（発表と意見交換）【10分】

合計75分

演習1 事業所としての自己検証

演習の留意点

1. 事前課題の内容整理は、批判的なことは避け、良い取組みと思われた内容について意見交換し、**自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理する**
2. 報告時の「**良い取組み**」として見る視点として、組織の工夫として、**①情報伝達や共有方法**（日常の業務的コミュニケーション、会議等）、**②サビ児管のフォローアップ体制**（サビ児管が困ったときの相談できる体制）、**③チームアプローチ**（管理者や看護師、支援員など事業所内の連携の工夫）など

★演習1 事業所としての自己検証

②事前課題の報告

10:35～11:20(45分)

【報告時間:約7分×6名≒45分】

- ・報告の目安:事業所説明(1分) → 1項目目(2分)
→2項目目(2分) →質疑(1分)を行う
- ・報告者以外:「良いと思う取組み」をメモする

※報告の目安はあくまで「目安」です

※報告途中であっても11:20にグループワークは終了します

★演習1 事業所としての自己検証

③個人ワーク

11:20～11:30(10分)

- ・メモしたメンバー報告の「良いと思う取組み」を整理する
- ・理由も記載する
- ・整理方法

誰の	良いと思う取組み	理由

★演習1 事業所としての自己検証

④グループ共有

11:30～11:40(10分)

- ・進行係を中心に個人ワークで整理した「良いと思う取り組み」と「その理由」をグループ内で全員発表してください

- ・発表と意見交換の目安

1人あたり1分×6回 ＋ 意見交換4分＝10分

演習1：全体共有（発表）

- 利用者支援に当たって、サビ児管として個人のスキルを高めていくことは必要
- 支援を行う環境・仕組みを組織として整えることも必要なことから、サビ児管と管理者とで課題を共有し、改善に向けて協議することも必要

昼食休憩

11:40~12:40

演習2スケジュール

12:40～14:20

○演習2 サビ見管としての自己検証

14:20～14:40

○演習2 グループ共有(発表)

合計120分

演習2 サビ児管としての自己検証 演習のポイント

サビ児管の業務内容は多岐にわたりますが、ここでは、①個別支援計画の作成（意思決定支援の展開）、②支援記録、③会議の実施、④支援員への技術指導及び助言、⑤苦情解決、⑥虐待防止（権利擁護）、⑦機密の保持について自己の業務を振り返ります。そして、サビ児管として行うべき業務を整理します

演習2の手順

12:40～14:40 サビ児管としての自己検証

①演習の手順・留意点の確認【10分】

②事前課題2の報告【80分】

・各自はメンバーの報告を参考に、今後の自分の取り組みに活かそうなアイデアを考える

③個人ワーク【10分】

・報告に対して今後の自分の取り組みへの改善策やアイデアをまとめる

④グループ共有（発表と意見交換）【20分】

合計120分

演習2 サビ児管としての自己検証 演習の留意点

1. 報告者は全項目報告してください
2. 個人ワークの記録は各自の事前課題の振り返りシートの余白欄等にまとめてください
3. 個人ワークでは、時間的な制約もあるので、各自で検討項目に優先順位をつけて進めてください

★★演習2 サビ児管としての自己検証

②事前課題2の報告

12:50～14:10(80分)

【報告時間:12分×6名≒80分】

- ・報告の目安:1項目(1分以内)×10項目=10分 →質疑(1分)を行う
- ・各自はメンバーの報告を参考に、今後の自分の取り組みに活かせそうなアイデアを考える

※報告の目安はあくまで「目安」です

※報告途中であっても14:10にグループワークは終了します

★演習2 サビ児管としての自己検証

③個人ワーク

14:10～14:20(10分)

- ・報告に対して今後の自分の取り組みへの改善策やアイディアをまとめる
- ・各自の事前課題の振り返りシート」の余白欄等にまとめてください
- ・個人ワークでは、時間的な制約もあるので、検討項目をいくつか絞ることも可とします

★演習2 サビ児管としての自己検証

④グループ共有

14:20～14:40(20分)

- ・進行係を中心に個人ワークでまとめた内容をグループ内で全員発表してください
- ・「項目」「自分の現状」に対して「今後の取り組み」を発表してください
- ・発表と意見交換の目安
1人あたり2分×6回 + 意見交換8分＝20分

演習2：発表

サビ児管として必要な業務ができていないことあるかもしれないが、落胆するのではなく、まずは役割業務を理解し、スキルアップの可能性を探していくことが大事

休憩

14:40~14:50

演習3スケジュール

14:50～15:50

○演習3 関係機関との連携等についての
自己検証

15:50～16:20

○演習3 グループ共有(発表)

演習3 関係機関との連携等の自己検証 演習のポイント

①関係機関との連携、②相談支援専門員との連携、③担当者会議の開催、④(自立支援)協議会への参加について自己の業務を振り返ります
特に、相談支援専門員との連携は欠かせませんので、どのような連携が望ましいかを検討します
また、事業所外で生じる問題を地域課題として捉え、解決に向けて関係機関との連携や(自立支援)協議会の活用について理解を深めます

演習3の手順

14:50~16:20 関係機関との連携等の自己検証

①演習の手順・留意点の確認【10分】

②事前課題3の報告【40分】

・各自メンバーの報告を参考に、今後の自分の取り組みに活かそうなアイデアを考える

③個人ワーク【10分】

・報告に対して今後の自分の取り組みへの改善策やアイデアをまとめる

④グループ共有（発表と意見交換）【10分】

⑤まとめ【20分】

合計90分

演習3 関係機関との連携等の自己検証 演習の留意点

1. 報告者は全項目報告してください
2. 相談支援専門員や関係機関との連携は、「サビ児管が主となってどのように連携するか」ということを踏まえる
3. 個人ワークの記録は各自の事前課題の振り返りシートの余白欄等にまとめてください
4. 個人ワークでは、時間的な制約もあるので、各自で検討項目に優先順位をつけて進めてください

★★★演習3 関係機関との連携等の自己検証

②事前課題3の報告

15:00～15:40(40分)

【報告時間:6分×6名≒40分】

・報告の目安:1項目(1分)×4項目+宿題1分

→質疑(1分)を行う

・各自はメンバーの報告を参考に、今後の自分の取り組みに活かせるようなアイデアを考える

※報告の目安はあくまで「目安」です

※報告途中であっても15:40にグループワークは終了します

★演習3 関係機関との連携等の自己検証

③個人ワーク

15:40～15:50(10分)

- ・報告に対して今後の自分の取り組みへの改善策やアイディアをまとめる
 - ・各自の事前課題の振り返りシートの余白欄等にまとめてください
3. 個人ワークでは、時間的な制約もあるので、検討項目をいくつか絞ることも可とします

★★演習3 関係機関との連携等の自己検証

④グループ共有

15:50～16:00(10分)

- ・進行係を中心に個人ワークでまとめた内容をグループ内で全員発表してください
- ・「項目」「自分の現状」に対して「今後の取り組み」を発表してください
- ・発表と意見交換の目安
1人あたり1分×6回 ＋ 意見交換4分＝10分

演習3：発表（16:00～16:20）

（自立支援）協議会は、障害者の地域での生活を考える場であることから、事業所が協議会に参画する意味として、①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域の視点を持つことが大事、②対応が難しい利用者への支援に当たっては、専門機関や地域の協力や理解が必要となること、③災害時、など様々なことが考えられる